

予 算 要 求 資 料

令和8年度当初予算

支出科目 款：総務費 項：防災費 目：消防指導費

事 業 名 【新】岐阜県消防学校女子寮整備事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

危機管理部 消防学校 管理調整係 電話番号：0586-89-3226

E-mail : c21201@pref.gifu.lg.jp

1 事 業 費 55,239 千円 (前年度予算額： 3,927 千円)

<財源内訳>

| 区 分 | 事業費 | 財 源 内 訳 | | | | | | | |
|-----|--------|---------|---------|-----------|---------|-------|-------|--------|-------|
| | | 国 庫 支出金 | 分担金 負担金 | 使 用 料 手数料 | 財 収 産 入 | 寄 附 金 | そ の 他 | 県 債 | 一 般 源 |
| 前年度 | 3,927 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3,900 | 27 |
| 要求額 | 55,239 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 55,200 | 39 |
| 決定額 | | | | | | | | | |

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨（現状と課題）

- ・県消防学校は、市町村の消防職員や消防団員の教育訓練を行う県内唯一の機関であり、災害現場において第一線で活動を行う消防職員、消防団員に対する教育訓練を実施している。
- ・桜寮は、鉄筋コンクリート造4階建で、まとい寮とともに、県内各消防本部に新規採用された消防職員（消防職員総合教育（初任教育救急科））等の寮として活用されている。
- ・現在、桜寮2階の3室（203号室、204号室、205号室）を女子学生用の部屋として利用しているが、今後、女子学生の増加が見込まれることから、残り2室（201号室、202号室）も女子学生が利用できるよう改修（浴室、監視カメラ設置、扉設置）する。
- ・令和5年度の県内の女性消防吏員の割合は2%であるが、「消防本部における女性消防吏員の更なる活躍に向けた取組の推進について（平成27年7月29日付け消防消第149号消防庁次長通知）」において、令和8年度当初までに女性消防吏員を5%に引き上げることが要請されていることから、今後、女子学生の増加が見込まれる。

桜寮2階2室（定員8名）を、女子学生が入寮可能とするための改修工事に要する経費

○女子学生が入寮可能となるように改修工事、工事監理

- ・浴室の整備、安全対策のための監視システムを設置する。

【事業内容】

- ・ユニットバス設置
- ・温水器設置
- ・給排水管設置
- ・監視システム（防犯カメラ、監視モニター設置）
- ・仕切り扉設置

※令和7年度に実施設計

（3）県負担・補助率の考え方

- ・防災対策事業債（充当率75% 交付税算入率30%）

（4）類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

| 事業内容 | 金額 | 事業内容の詳細 |
|-------|--------|---------|
| 業務旅費 | 45 | 職員旅費 |
| 消耗品費 | 120 | 事務消耗品 |
| 燃料費 | 60 | 公用車燃料費 |
| 役務費 | 36 | 通信費 |
| 委託料 | 2,732 | 工事監理 |
| 工事請負費 | 52,246 | |
| 合計 | 55,239 | |

決定額の考え方

4 参考事項

（1）各種計画での位置づけ

「緊急消防援助隊受援計画」に「宿営場所」として位置付け

（2）後年度の財政負担

無

事 業 評 價 調 書 (県単独補助金除く)

■ 新規要求事業

□ 継続要求事業

1 事業の目標と成果

(事業目標)

- ・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

消防学校への入寮を希望する女子学生の入寮率 100%を維持する。

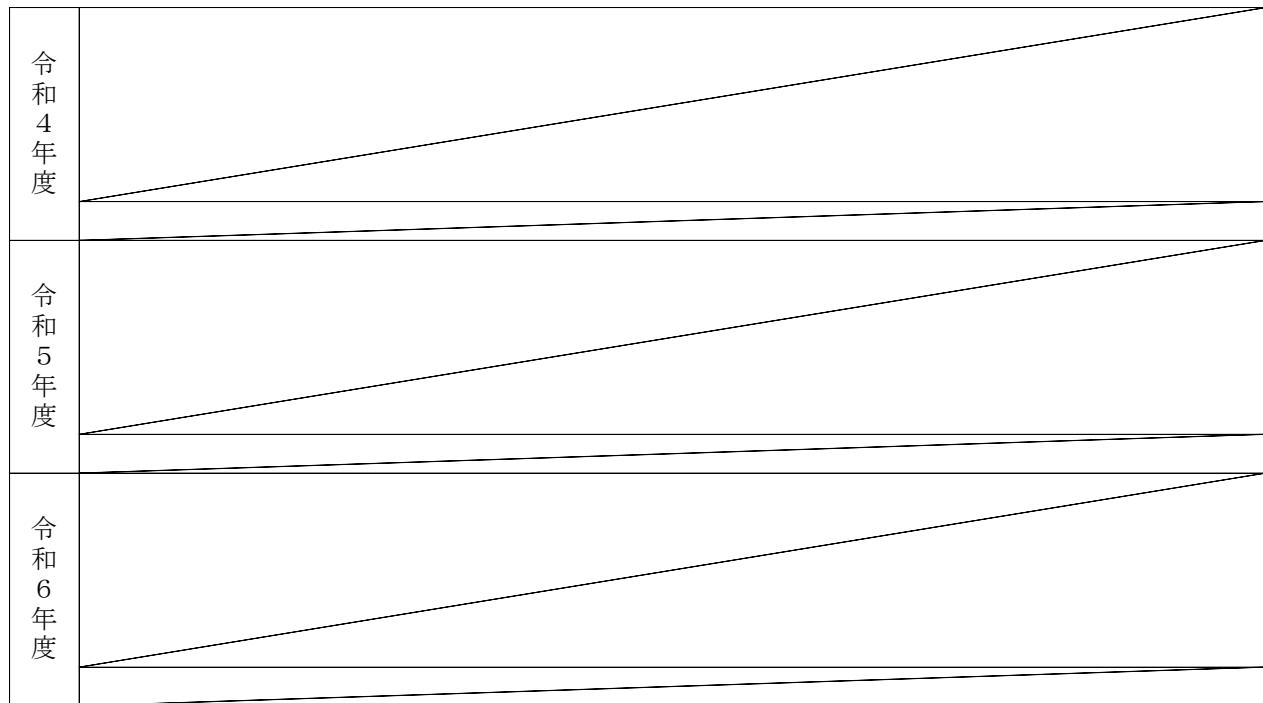
(目標の達成度を示す指標と実績)

| 指標名 | 事業開始前 (R5) | R6年度 実績 | R7年度 目標 | R8年度 目標 | 終期目標 (R10) | 達成率 |
|-------------------|---------------|------------|------------|------------|---------------|-----|
| 入寮希望の女性学生 の入寮率 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | - |

○指標を設定することができない場合の理由

[Large empty box for writing]

(これまでの取組内容と成果)



2 事業の評価と課題

(事業の評価)

- ・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断)

3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない

(評価)

3

・令和5年度の県内の女性消防吏員の割合は2%であるが、国から令和8年度までに5%に引き上げることが要請されていることから、女子学生の増加が見込まれている。

- ・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか)

3：期待以上の成果あり

2：期待どおりの成果あり

1：期待どおりの成果が得られていない

0：ほとんど成果が得られていない

(評価)

- ・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか)

2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている

(評価)

(今後の課題)

- ・事業が直面する課題や改善が必要な事項

・消防職員総合教育（初任教育救急科）の入校生が4月当初から11月中旬まで入寮しているため、退寮後の短期間で工事を完了させる必要がある。

(次年度の方向性)

- ・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント
又は事業名及び所管課

【〇〇課】

組み合わせて実施する理由
や期待する効果 など